

# 全蜀王通鑑

No. 1  
1968.  
9.16

東京教育大學  
全學斗争委員會

金鑄鐵鑄  
金鑄鐵鑄  
金鑄鐵鑄  
金鑄鐵鑄

新たに才華の発展をねらし學校られた教育大の全  
ての教友諸君！ 大正二十六年文學部ストライキ突入  
以来、「夏休み」という困難な時期を手に抜いた筑  
波移転阻止を図想す我々の計画は、今や再び庄園的  
な計画の発揮をかりひかんとしている。九月十三  
日の全學集会において、文才争奪の全學升進委員會  
に向けでのアピールが出来やせた、このアピールに基  
づき、文才升進委員會を中心に、理、農、教の連友を結  
集し、運動本部委員會（禁）を設立した。この全學

本日二二二文求起集会に總結集せよ  
明日二二三全學總決起集会(全學主權)  
に總結集せよ、  
前後全學斗争委員會結成にて、この地學部學友への  
総集会は、生徒代表團が開催せよ、

そなほ次の一年に集中される。即ち、二年生での  
メソニウムの基本的な知識を發展させ、研究を専門化  
ナセ、強固な基礎ストークを実現する」ことである。その  
うじにみて、六、一〇段走（土地確保決定）を田舎

筆画をかねるところが、田中画にこじらの筆跡の自  
身で、隸書に掛けて楷書變體の筆跡にしてゐる、た  
めに、一〇点起りでは、現在にかけぬとして  
未采における各種指道の源なるものである、乙丙秀穎  
の中國詩集、臨風齋詩集等にその例がある。

式決定し、文部省交渉もした大學附属はいわきでの  
略綱を眞鍛ヤセシツトヤハシムテ、何とか  
して我々の才華を發揮しなかつとしている。こうして  
我々にとては現在の地位といつものほほせに異も  
後過した顛面なのである。大洋洲風との争因故本決  
をくみして我々はすべての希望、梦想前途への、才  
華への盡用への努力を遂行しなけりがむかひなし。一本  
萬貫金を原本金を保有せねばならぬ。我々は窮屈  
格闘を厭うの如きはおなじで無能せざるはなか  
ず。この点が却かに御沙汰に難難せん。